吾が輩は深海棲艦である。

永夜の報い

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ワレ　イキュウ

ザヒョウ　　１ー１ー１　ニテ　タイキ　チュウ

目　次

1回　1
10回　5
50回　10
100回　25
250回　99
9回　1
神のみちびき　6

1回10回50回100回250回999回

ワレ　イキュウ
ザヒョウ　1—1—1　ニテ　タイキチュウ
ワレ　イキュウ
ザヒョウ　1—1—1　ニテ　タ。。。。

テキカン　カクニン
クチクキュウ　ニ
ワレ　ゲイゲキ　ヲ　カイシ　ス

ホウゲキ　メイチュウ　テキカン　イチ　チュウハ。。。。。

エマージェンシー　エマージェンシー

ワレ　タイハ　シキュウ　オウエン　ヲ　モトム
エマージェンシー　エマージェンシー
ワレ　タイハ　シキュウ　オウエン　ヲ　モトム
ジュウニジ　ノ　ホウコウ　ヨリ　ギョライ　セッキン　チュウ　ギョライ　セッ
キン　チュウ　ギョライ　セッキン　ｔｙ

――

ワレ　イキュウ　現在　ザヒョウ　１―１―１　ニテ　タイキ　クリカエス　ワレ
イキュウ　現在　ザヒョウ　１―１―１　ニテ　タイキ
オウトウセヨ　クリカエス　オウトウセヨ
ワレ　イキュウ　現在　ザヒョウ　１―１―１　ニテ……
テキカンカクニン　テキカンカクニン
カズ　ロク　クチク　ヨン　ケイジュン　ニ
コレヨリ　セントウヲ　カイシスル

ホウゲキ　メイチュウ　ケイジュン　チュウハ……

ワレ　タイハ　ワレ　タ

ワレ　イキュウ。
ワレ　ナゼカ　シズマヌ。
テキカン　キタ　セントウ　スル。
ワレ　ボコボコ　サレル。
ワレ　シズム。
シカシ　ワレ　イマ　ウカブ　シズマズ。
ナゼ　フメイ。
イキュウ　ウカブ。

テキ　キタ。
コウゲキ　スル。

マタ　ヤラレル。
ワレ　シズム。
マタ　フカイ　フカイ　ウミニ　シズム。

ワレ、イキュウ。
サイキン空母ガ、タクサンキテ、ワレヲ粉々ニシテイク。正直、クルシイ。イタイ。ソレコソ、シヌホド。　…　マア、シナナイケド。
ワレガシズマヌリユウハ、アイモカワラズワカラナイ。

…　空母マタキタ。モウ、イ

イ、イヤダ!!
アァ!!空ニ!!空ニ!!

艦攻ガライ

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

吾が輩は、深海棲艦である。
クラスはイ級。名前はしらない、たぶんない。
吾が輩は気がついた時にはもう海にいて、イキューイキューとないていたのが最初の記憶だ。嘘だ。
吾が輩は、何故か沈んでも復活する、この1ー1ー1海域でだ。この海域以外で沈んでもここで復活する。
この現象がなんなのか、皆目検討もつかないがどうやら吾が輩だけのようだ。他の深海棲艦に話しかけても『ワレ○○、ゲンザイタイキチユウ』だとかまるでデキの悪いＡＩのような返答か、『オマエ、ヘンナヤツダナ』『‥‥カエレ!!』等と雑にあしらわれるかである。
いやぁ困った困ったあっはっは。

‥‥はぁ。

神のみちびき

吾が輩はイ級である。名前はまだない。イ級でも「まだない」でも何でもいいとは思うが、まぁないのだ。うん。

吾が輩は深海棲艦である。それも下の下、ズンドコである。

深海棲艦というのは基本的に意思のようなものがない。簡単に言うなら自我がないのだ。

だが、例外もある。主だった者たちをあげるならば上位種達（姫、鬼級等）だ。

彼女らは人語を解し、話すことができる。（カタコトだけど）同じく艦娘達も人語を話すことができる。これ等により艦娘と深海棲艦上位種達は同じくらいの知能があるということがわかる。

じゃあ深海棲艦（吾が輩）の下位種（達）は？

吾が輩は他のイ級が話す所を見たことがない…　別に吾が輩がハブられている訳ではない。

イ級に限らず重巡級、軽空母までの深海棲艦から文化のかほりのする行動が見られなかった。

だがしかし吾が輩は見たのだ…「ヲッ…　ヲッ！」と交流している二体のヲ級を、それも何度か。

戦艦級もル級同士で話していたのを聞いていたので同じであろう。よって戦艦、正規空母級は知能がそこそこあると思われる。

吾が輩は何者であろうか？

吾が輩は姫、鬼級ではない。勿論戦艦、正規空母でもない。深海棲艦の駆逐艦イ級である。

艦娘の駆逐艦はよく喋る。

吾が輩も口に出さないがかなり雄弁だという自覚はある。

吾が輩は実は艦娘だったりするのだろうか。

…　今日はもう寝よう。

朝だ。

今日は何をしようか。昨日は自分の存在について考えたから、今日は雲の数でも数えるか。

・・・・　暇だ。

深海棲艦が余計な自我を持たないのは退屈より身をまもるためかもしれない。ンアー。

・・・・　艦娘がきたな。イ級イヤーは地獄耳だ。これは、駆逐艦だな。しかも一隻。そういえば、艦娘はよくここに一隻で来る。何故だろうか。

やはり駆逐艦か。

砲雷撃戦のじゅ・・・・　ん・・・

その時、神風が吹いた。
駆逐艦娘「吹雪」のパンツがイ級の目に晒された。
そして、奇跡が起きた。

なんだ今の衝撃は。まるで頭部に４６センチ砲を喰らったかのような衝撃は。
あの艦娘の装甲の一部が目にはいった途端のことだった。もしや新兵器か。いや改造パンツとか嫌すぎる。

ゑ、いま、吾が輩装甲のことなんて、‥‥　うぅッ。頭がっ。

『肌色があればいいってもんじゃないでしょう』『パンツ！パンツです！』『ファッキンコールドちんちんミニマイズ』『陰毛のためにペン先をすり減らすのは地球環境のためにもよくないと思うんです』

しばふ神、吹雪、ありがとう。
すこし思い出せた。
吾が輩は提督（プレイヤー）だったのだ。
そう、艦これの。

ドドーン

今回はここまでか・・・・
だが、自分が何者だったかわかった。
こんなに嬉しいことはブクブクブク・・・・